

# OCFC NEWS



2005年1月1日 新春号

Vol. 21

## 大川こども & 内科クリニック

### 今年は花粉症が大流行

今年の花粉症はどうやら出足が早いようです。これは昨年の夏の好天気がスギの発育を促進したことによります。品川区では12月1日から花粉症が観察されているそうです。夏の天気から今年の花粉症を予測すると、例年の2倍、昨年の30倍の花粉が飛散し、その開始日は早まり、終了日は遅れるそうです。すなわち花粉症の予防内服は元旦早々から開始しなければならないわけです。そうです。今すぐに開始です。OCFCでも昨年から花粉症が

発症した人が来院しております。花粉症で毎年お悩みの皆様今すぐ予防の薬を始めましょう。

お勧めの花粉症対策

- ① 早目の予防薬・治療薬
  - ② 外出時はメガネにマスクをしましょう。
  - ③ 帰宅時に外套は部屋の外で脱ぐ、部屋に持ち込まない。
  - ④ 顔・目・鼻をあらう。
  - ⑤ 部屋には空気清浄器
- これで今年のシーズンを乗り越えましょう。

### インフルエンザが流行中です

インフルエンザが流行中です。今シーズン(2004~2005)は10月より患者さんの発生が見られましたが年内はいずれも散發的な発生でした。OCFCには12月初旬に第一号の患者さんが発生しています。1月からは流行が見込まれます。まだワクチンを御済でない方は大至急接種しましょう。OCFCでは若干在庫があります。無くなり次第終了となります。昨年1月の新聞報道にあるように、乳児へのタミフル投与はなるべく控えた方が無難ですが、インフルエンザワクチンを接種していない乳児の場合は必要なこともあります。タミフルの副作用を恐れるあまり、乳児を脳炎・脳症の危険に晒すわけにはいかないからです。OCFCでは乳児へのタミフル投与のときは効果と危

険性についてご説明し、同意を得た上で(インフォームドコンセントをとって)投与の判断をいたします。なお昨シーズンに10人のインフルエンザに罹患した乳児にインフォームドコンセントをとって、タミフルを処方しております。

お勧めのインフルエンザ対策

- ① インフルエンザワクチンの接種
- ② 外出時口・鼻をマスクで覆う
- ③ 手洗い励行
- ④ 目・鼻・口を触らない。
- ⑤ 流行期には外出しない。
- ⑥ 罹患した人は早期の受診・抗インフルエンザ剤の内服
- ⑦ 罹患した人は他の人と極力接触しない。
- ⑧ 罹患した人は会社・学校・園に行かない。

### 年末年始の診療 (通常の診療は12月28日で終了します。)

12月29日 午前9時より午後3時まで。院長・荒木先生  
 12月30日 午前9時より正午まで。 院長・佐々木先生  
 12月31日 休診  
 (院長は9時より17時まで蒲田医師会診療所勤務)

1月1日 休診  
 1月2日 午前9時より正午まで 院長  
 1月3日 午前9時より午後3時まで 院長  
 1月4日 通常の診療

# OCFC INFORMATION

## 感染症 だより

### 冬の下痢症大流行

秋から冬にかけて冬季下痢症が大流行です。この時期の下痢はノロウイルス(小型球形ウイルス)によるものです。潜伏期間は48時間 ぐらい。数時間から半日ぐらい続く頻回の嘔吐、さらに嘔気は1~2 日、7割 ぐらいの方は下痢が続きます。発熱は2割 ぐらいですが38~39 °Cの高熱が2 日程度。ウイルス性ですから抗生剤は必要ありません。場合によっては下痢を長引かせる逆効果もありそうです。治療のポイントは嘔吐の後に3時間 ぐらいの禁飲食。吐き気止めの座薬や食前の吐き気止めが必要となります。また下痢止めは原因ウイルスを腸内に閉じ込める可能性がありますので病初期には使用しません。4~5 日目以降に用います。止痢剤の中には牛乳アレルギーの方には使用できない薬もあります。一般によく用いられているラックビーやタンナルビンがそれに当たります。OCFC で用いているラックポンは使用できます。また腸の動きを止めるロペミンは痙攣を引き起こすこともあり、10 ヶ月未満の乳児には用いられません。

感染は糞口感染ですので患者本人のみならずお母さん・お父さんも手洗いは励行してください。症状が治まっても1週間 ぐらいウイルスは排泄されます。9月、10月 はそれぞれ91名、68名 が11月 には急増して156名 です。12月 は更に増加中です。

### マイコプラズマ肺炎

この秋はマイコプラズマが大流行でした。抗体で確認できた肺炎は27名 ですが、検査をされていない方をあわせると数倍以上罹患された方がいらしたでしょう。頑固な咳と高熱では早めのマクロライド内服が重要でした。ただマクロライドは不味いので服薬できるかどうか病気が長引くかどうかを決定しているようです。マイコプラズマ肺炎はお薬が飲めればほとんど入院する必要がない疾患です。飲めないお子さんと、ご家族が希望されれば胃チューブで投与することもあります。この方法では1回 で終了します。

### その他の感染症

秋から冬に向かって保育園・幼稚園を中心に水痘・手足口病が流行し、12月 になって流行性耳下腺炎が流行中です。水痘は9月 13名、10月 11名、11月 23名 でした。接触後48時間以内 にワクチンを接種すれば発症を予防可能、それ以降でも軽症化できるようです。今までは接触者へのワクチン接種には消極的でしたが、軽症化を目的としたワクチン接種が有効であるとの報告もあり、今後は接種を前向きに考えたいと思います。ご希望の方はお申し込みください。抗ウイルス薬の予防内服という方法もあります。手足口病はそれぞれ毎月20名前後、元気であればこの病気での登園・登校は可能です。流行性耳下腺炎は12月 になって急速に増加しています。

## うさぎのママ だより

うさぎのママは秋も大好評でした。特に11月 からはお弁当・離乳食サービスを開始し、約半数の方にご利用いただいております。お弁当または離乳食におやつ・飲物をつけて500円 で御提供させていただいております。保育室ご利用のかたは9月 72名、10月 89名、11月 118名 でした。感冒肺炎・気管支炎等の呼吸器疾患が多く182名、水痘は25名です。これからはインフルエンザの方の入室も始まります。収容するお部屋はもちろん他の疾患とは別に入室していただきます。インフルエンザの強い感染力を考えると場合によってはインフルエンザワクチン未接種の方の入室を制限するときがあります。

1月 からスタッフが1名減りますのでうさぎのママの定員は4~6名 となります。年末は12月 27 日まで、新春は1月 4日よりオープンいたします。どうぞご利用ください。

うさぎのママを手伝っていただける保育士さんを募集しております。年齢は問いません。どうぞご応募ください。

OCFC メルマガ好評発信中

## 病診連携

関連病院施設にお願いした患者さんは9月22名、10月24名、11月26名の72名でした。検査依頼は5例、外来診療は62症例、入院依頼は5症例でした。検査依頼は東京医科歯科大学に3名で、院長の外来に小児の慢性頭痛1名、腎外来(水沢先生)1名、脳波検査1名でした。そのほか東邦大学にも紹介しております。入院依頼の5名のうち1名は歩行障害でしたが東京医科歯科大学入院時には歩行可能で入院は中止となりました。東邦大学小児外科に急性虫垂炎で緊急手術をお願いしております。そのほか急性肺炎で、東邦大学、虎ノ門病院小児科、社保蒲田総合病院にそれぞれ1名ずつ入院を依頼しております。外来紹介では東邦大学の整形外科、泌尿器科、耳鼻科、放射線科に紹介しています。インフルエンザワクチン接種後にアナフィラキシーショックを起こされた方も紹介しましたが、入院とならず夜半に帰宅されたそうです。そのほか医科歯科大学小児外科、血液内科、日赤医療センター小児外科、外科、大森日赤循環器科、婦人科、に紹介しております。近隣のクリニックには蒲田西口クリニック、掘耳鼻科、岩田耳鼻科、大塚耳鼻科、下丸子眼科、藤岡皮膚科、上田整形外科にそれぞれ依頼しております。詳しくはホームページをご覧ください。

## 処置室 コーナー

処置室にいらっしゃったかたは9月478名、10月706名、11月766名です。点滴は3ヶ月間で90名、喘息や感染性胃腸炎の脱水に対して、また肺炎気管支炎に対して抗生剤の点滴静注を行っています。そのため入院者数の数が減少しております。呼吸困難時の吸入は毎月100人くらい、鼻水・鼻閉に対する鼻処置・鼻汁吸引は250名に施行しています。採血検査は9月が104名から11月は138名に増え、冬場に向けて処置数が増加傾向にあります。12月からはインフルエンザの検査が増加することでしょう。現在処置室でできる迅速検査はインフルエンザ、アデノウイルス、RSウイルス、ロタウイルス、溶連菌などです。

## 院長のサイエンティフィックアクティビティ(Scientific activities)

秋は学会の季節でした。院長学会出席のときは代診となりご迷惑をおかけしました。しかし学会出張は新しい知識を得て、医療のレベルを維持するためにぜひとも必要なことですのでご理解ください。院長は血液学会、小児癌・血液学会に出席しております。小児癌ではチャリティマラソンを協賛して、皆さんと一緒に宝ヶ池を2周して京都の紅葉を楽しみました。10月には医科歯科大学で医学部・保健学科で小児科の講義をしました。雑誌のひよこクラブ2月号に乳児がかかる病気ランキングの監修をしました。

## 診療時間

栄養相談の予約:代表電話で直接予約下さい。  
大田区の各種健康診査は火・木・金の午後2:00~4:00にお越し下さい。検査希望の方は代表電話にて直接予約して下さい。

曜日	8:30~12:00	14:00~16:00	16:00~18:00
月	小児科・内科(院長)	小児科・内科(院長)	
火	小児科・内科(院長)	乳健・予接・ア・慢	小児科・内科(院長)
水	小児科(院長)	乳健・予接・ア・慢	小児科(富沢)
	内科・循環器(上田)	1・3水 じっくり外来(院長)	
木	小児科・内科(院長)	乳健・予接・ア・慢	小児科・内科(院長)
金	小児科・内科(院長)	乳健・予接・ア・慢	小児科・内科(院長)
土	小児科・内科(院長)	乳健・予接(1時~2時)	小児科(荒木:2時~3時)
	1・3・5土 小児科・循環器(佐々木)	1土 神経発達(荒木1時~3時)	
	2・4土 アレルギー(大柴)	じっくり外来(院長:不定期)	
日曜・祝日	9時~12時 休 日診療・予接(院長・荒木・佐々木)		

乳健:乳児健診、予接:予防接種、ア:アレルギー疾患 慢:慢性疾患 栄養相談の予約:代表電話で直接予約下さい。  
●毎週日曜日午前予防接種しております(要予約) ●土曜日のじっくり外来の予定は受付またはホームページでご確認ください。

### ■電話・インターネット予約サービスコード

項目	サービスコード	項目	サービスコード	項目	サービスコード	項目	サービスコード
小児科一般	11#	乳幼児健診	16#	2種混合	22#	日本脳炎	28#
内科一般	12#	健康診断	17#	麻疹	23#	その他	29#
アレルギー/慢性疾患	13#	確認	20#	風疹	24#		
隔離感染症	14#	取消	30#	水痘	26#		
予防接種	15#	3種混合	21#	おたふくかぜ	27#		

予約の空き情報は40#でご案内いたします。予防接種(15#)を押した方はさらにサービスコードで希望される項目を指定して下さい。サービスコードの確認を、よろしければ0# 誤ってれば1#で行って下さい。

## 院内設備・機器

院内設備:隔離感染症室、電話/インターネット自動予約機(24時間対応)、空気清浄装置(臓器移植にも対応できる)(3台)オゾン空気清浄・防臭装置(2台)電解水発生装置、消毒用専用スプレー  
検査機器:レントゲン装置、自動解析装置付心電計、自動血球分析器、CRP/ASO測定機、自動検尿器、電子スパイロメーター、血糖測定器、経皮酸素分圧モニター、24時間酸素分圧モニター、聴力検査機器、心電図モニター、チンパノメトリー、アトムネオテーブル

## 患者さん 質問箱



### Q

私の娘は2歳になりますが10月 からずーっと咳がでてとまりません。  
どこか悪いのでしょうか。肺炎やなにか悪い病気ではないのでしょうか。  
(子供が弱いのか、医者が下手なのか迷い始めた母)

### A

今年は咳漱が長引いている子供さんが多いようです。一つには今年マイコプラズマ肺炎が大流行していることが原因のようです。マイコプラズマ肺炎は高熱が続き、咳が止まりにくいのが特徴ですが、一部では発熱が目立たない場合もあるようです。長引く咳のときは熱がなくとも検査をするか、一度マクロライド系の抗生剤を服用するのもいい方法です。また一度肺炎・気管支炎にかかるとどうもそのシーズンは咽喉が敏感になって咳をしやすい、咳が長引くようなことがあります。この長引く咳漱、3週間続くと遷延性咳漱、8週以上続くと慢性咳漱といいます。この慢性咳漱には咳喘息、アトピー咳漱、花粉症、喉頭過敏症、後鼻漏、胃食道逆流症に分類されます。

咳喘息とは気管支喘息と同じように各種のアレルゲンで誘発されます。咳発作はハウスダストやダニの場合、就寝時と6時間後の明け方近くの2回ほどおこるのが特徴です。喘息と同様抗アレルギー剤、ステロイド吸入、気管支拡張剤が有効です。

アトピー咳漱はアレルゲンに反応して発作が起こり、咽喉のイガイガ感が特徴です。喉頭・喉頭の過敏性亢進が原因ですので、抗アレルギー剤や吸入ステロイドが有効で気管支拡張剤(ホクナリンテープ等)は無効です。アレルゲンがスギやその他の花粉によれば花粉症に伴う慢性咳漱となります。花粉症の70% に起こるともいわれています。

喉頭過敏症はアレルゲンの関与がないもので、吸入ステロイドが効果的です。

後鼻漏・食道逆流症は夜間のしつこい咳漱が特徴です。

後鼻漏では鼻汁吸引とマクロライド系抗生剤、去痰剤の使用が効果的です。

食道逆流症では夜間胃液が食道に流れ込んで食道の粘膜が痛み咳の原因となるものです。

胃粘膜保護剤が有効です。OCFC では以上のポイントで慢性咳漱の診断・治療にあたっています。でもお母さん、元気で体重増加もあればあまり鼻汁や咳に神経質になることはありませんよ。子供は風邪を引きながら丈夫になっていくんですから。朝おきたときの咳はむしろ寝ているときにたまった痰を取り除く大切な生理現象です。この咳は止めてはいけません。いやとまりません。

(OCFC院長)

医療法人社団 オー・シー・エフ・シー (OCFC) 会

OCFC  
Okawa Children & Family Clinic  
大川こども&内科クリニック

小児科・内科・アレルギー科 (併設 病児保育室 うさぎのママ)

東京都大田区多摩川1-6-16

院長 大川 洋二

診療時間月～金 午前 8:30～12:00 午後 2:00～6:00  
土 午前8:30～12:00 午後 1:00～3:00  
(日曜・祝日休診) 駐車場五台あり

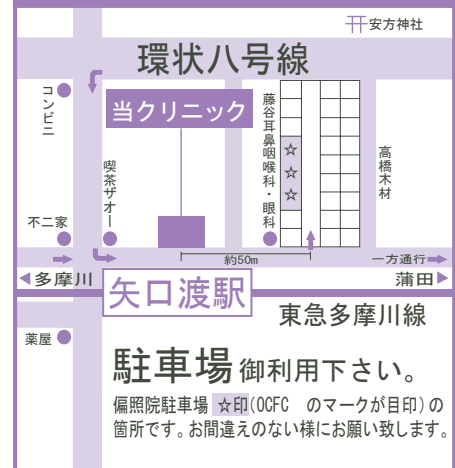
予約専用 03-3758-0099 代表番号 03-3758-0920

E-mail: info@ocfc.jp URL: http://www.ocfc.jp

うさぎのママ お問い合わせ

直通電話 03-3758-0066 E-mail: usagimama@ocfc.jp

## 案内図



東急多摩川線矢口渡駅前